

JAWS



発行人：麻生 泰
編集人：中 幸四郎
山口千津子
編集協力：平山企画舎



CONTENTS

家庭動物等の飼養及び保管に関する

- 基準... ①～②
- JAWS セミナー開催案内... ①
- 捨て犬・捨て猫防止キャンペーン... ②
- 視察【UFO キャッチャー】... ②
- シンポジウムのご案内... ②
- 動物との共生を考える連絡会... ③
- ランダル・ロックウッド氏講演会 報告
2ちゃんねる
馬鹿侍事裁判
- ペット共生住宅訪問ルポ... ④～⑤
- 支部便り【南大阪支部】... ⑤
- 動物愛護作文コンクール作品募集... ⑥
- 事務局から... ⑥
- 寄付者ご芳名... ⑥
- 払い下げ廃止運動を振り返る... ⑦
- ジョーズジュニアコーナー... ⑧
- 定時会員総会報告 別紙

発行 / 社団法人日本動物福祉協会 〒106-8663 東京都港区元麻布3-1-38 第5谷沢ビルディング内
TEL (03) 3405-5681 FAX (03) 3478-1945 IP・http://www.corcocu.co.jp/JAWS/

家庭動物等の飼養及び保管に関する基準

平成14年5月28日 環境省告示第37号

第1 一般原則

1. 家庭動物等の所有者又は占有者(以下「所有者等」という。)は、命あるものである家庭動物等の適正な飼養及び保管に責任を負う者として、動物の生態、習性及び生理を理解し、愛情をもって家庭動物等を取り扱うとともに、その所有者は、家庭動物等を終生飼養するように努めること。

第2 定義

この基準において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1)動物 哺乳類、鳥類及び爬虫類に属する動物をいう。
- (2)家庭動物等 愛がん動物又は伴侶動物(コンパニオンアニマル)として家庭等で飼養及び保管されている動物並びに情操の涵養及び生態観察のため飼養及び保管されている動物をいう。
- (3)管理者 情操の涵養及び生態観察のため飼養及び保管されている動物

第3 飼養及び保管に当たつての配慮

1. 家庭動物等を飼養しようとする者は、飼養に先立って、当該動物の生態、習性及び生理に関する知識の修得に努めるとともに、将来にわたる飼養の可能性について、住宅環境及び家族構成の変化も考慮に入れ、慎重に判断するなど、終生飼養の責務を果たす上で支障が生じないよう努めること。

第4 共通基準

- 1. 所有の明示 家庭動物等の所有者は、その責任の所在を明らかにし、逸走した家庭動物等の発見を容易にするため、名札、脚環、マイクロチップ等を装着するなど、動物の種類を考慮し

て、容易に脱落又は消失しない適切な方法により、その所有する家庭動物等が自己の所有であることを明らかにするための措置を講じよう努めること。

2. 健康及び安全の保持

所有者等は、次の事項に留意し、家庭動物等に必要運動、休息及び睡眠を確保し、並びにその健全な成長及び本来の習性の発現を図るよう努めること。

- (1) 家庭動物等の種類、発育状況等に応じて適正に飼料及び水を給与すること。
- (2) 疾病及びけがの予防等の家庭動物等の日常の健康管理に努めるとともに、疾病にかかり、又は負傷した家庭動物等については、原則として獣医師により速やかに適切な措置が講ぜられるようにすること。
- (3) 所有者等は、適正な飼養及び保管に必要なときは、家庭動物等の種類、習性及び生理を考慮した飼養施設(以下「飼養施設」という。)を設けること。

飼養施設の設置に当たっては、適切な日照、通風等の確保を図り、施設内における適切な温度や湿度の維持等適切な飼養環境を確保するとともに、適切な衛生状態の維持に配慮すること。

3. 生活環境の保全

(1) 所有者等は、自らが飼養及び保管する家庭動物等が公園、道路等公共の場所及び他人の土地、建物等を損壊し、又はふん尿その他の汚物、毛、羽毛等が汚すことのないように努めること。

(2) 所有者等は、家庭動物等のふん尿その他の汚物、毛、羽毛等の適正な処理を行うとともに、飼養施設を常に清潔にして悪臭、衛生昆虫等の発生の防止を図り、周辺的生活環境の保全に努めること。

4. 適正な飼養数

所有者等は、その飼養及び保管する家庭動物等の数を、適切な飼養環境の確保、終生飼養の確保及び周辺の生活環境の保全に支障を生じさせないよう適切な管理が可能となる範囲内とするよう努めること。

5. 繁殖制限

所有者は、その飼養及び保管する

る家庭動物等が繁殖し、飼養数が増加しても、適切な飼養環境及び終生飼養の確保又は適切な譲渡が自らの責任において可能な場合を除き、原則としてその家庭動物等について去勢手術、不妊手術、雌雄の分別飼育等その繁殖を制限するための措置を講じること。

6. 動物の輸送

所有者等は、家庭動物等の輸送に当たっては、次の事項に留意し、動物の健康及び安全並びに動物による事故の防止に努めること。

- (1) 家庭動物等の疲労及び苦痛をできるだけ小さくするため、なるべく短い時間による輸送方法を選択するとともに、輸送時においては必要に応じた適切な休憩時間を確保すること。
- (2) 家庭動物等の種類、性別、性質等を考慮して、適切に区分して輸送する方法をとるとともに、輸送に用いる容器等は、動物の安全の確保及び動物の逸走を防止するために必要な規模及び構造のものを選定すること。
- (3) 輸送中の家庭動物等に適切な間隔で給餌及び給水するとともに、適切な温度、湿度等の管理、適切な換気の実施等に留意すること。

7. 動物に起因する感染性の疾病に係る知識の修得等

(1) 所有者等は、その所有し、又は占有する家庭動物等に起因する感染性の疾病について、動物販売業者が提供する情報その他の情報をもとに、獣医師等十分な知識を有する者の指導を得ることなどにより、正しい知識を持ち、その飼養及び保管に当たっては、感染の可能性に留意し、適度な接触にとどめるなど、自らの感染のみならず、他の者への感染の防止にも努めること。

(2) 家庭動物等に接触し、又は家庭動物等の排泄物を処理したときは、手指等の洗浄を十分行い、必要に応じ消毒を行うこと。

8. 逸走防止等

所有者等は、次の事項に留意し、家庭動物等の逸走の防止のための措置を講ずるとともに、逸走した場合においては、自らの責任において速やかに捜索し捕獲すること。

JAWS セミナー 開催案内

フランク・アシオン博士講演会

●米国ユタ州立大学心理学教授
フランク・アシオン博士は、愛護教育が児童の発達にどのような影響を与えるかを20年以上追いつけているこの分野の専門家である。また現在は、暴力から逃れるための人間のシェルターに、付随的に動物も預かる施設を作るべきであるという運動の第一人者でもある。
今回は、教室以外における人道教育のあり方及び暴力等特殊な問題を抱えている児童に対する生命尊重教育のあり方に関する講演を予定しています。

2002.10.20(日) 10:00~16:30
12:00~13:30まで休憩

とる 大日本製薬株式会社 東京都台東区谷中3-25-6

会費 一般5,000円 会員3,000円 講師 山崎恵子/ペット研究会「互」主宰

◎お申し込み/お問い合わせ: 当協会事務局 ☎03(3405)5681 ☎03(3478)1945 (担当) 山口・白井まで

博士は10月18日に神戸市で開催される国際シンポジウムでも講演されます。
りぶ・らぶ・あにまるず国際シンポジウム 2002.10.18
子どもたちへ与える動物の影響Part II 一精神的影響の視点より一
◇会場:神戸ポートピアホテル ◇内容:「話題提供」(各1時間程度)
【子ども、動物、人道教育】
■ジュリー・バンク氏/米国マリコバ郡動物保護・管理施設・公衆プログラム・開発部長
【子ども、動物そして感情移入・感情の共有~虐待、暴力防止につながるか】
■フランク・R・アシオン氏/米国ユタ州立大学心理学部教授

の防止に配慮した構造とすること。
(2)飼養施設の点検等、逸走の防止のための管理に努めること。

9. 危害防止

所有者等は、人に危害を加えるおそれのある家庭動物等を飼養及び保管する場合には、次の事項に留意し、逸走の防止等、人身事故の防止に万全を期すること。
(1)飼養施設は、動物が脱出できない構造とすること。
(2)飼養施設は、飼養に当たる者が、危険を伴うことなく作業ができる構造とすること。
(3)所有者等は、人に危害を加えるおそれのある動物の逸走時の措置についてあらかじめ対策を講じ、逸走時の事故の防止に努めること。
(4)所有者等は、飼養施設を常時点検し、必要な補修を行うとともに、施設の確認をするなど逸走の防止のための管理に万全を期すること。
(5)捕獲等のための機材を常備し、当該機材については常に使用可能な状態で整備しておくこと。
(6)所有者等は、人に危害を加えるおそれのある家庭動物等が飼養施設から逸走した場合には、速やかに関係機関への通報を行うとともに、近隣の住民に周知し、逸走した動物の捕獲等を行い、家庭動物等による事故の防止のため必要な措置を講ずること。

10. 緊急時対策

所有者等は、地震、火災等の非常災害に際してとるべき緊急措置を定めるとともに、移動用の容器、非常食の準備等、避難に必要な準備を行うよう努めること。非常災害が発生したときは、速やかに家庭動物等を保護し、及び家庭動物等による事故の防止に努めるとともに、避難する場合には、できるだけその家庭動物等の適切な避難場所の確保に努めること。

第5 犬の飼養及び保管に関する基準

1. 犬の所有者等は、さく等で囲まれた自己の所有地、屋内その他の人の生命、身体及び財産に危害を加え、並びに人に迷惑を及ぼすことのない場所において飼養及び保管する場合を除き、犬の放し飼いを行わないこと。

2. 犬の所有者等は、犬をけい留する場合には、けい留されている犬の行動範囲が道路又は通路に接しないように留意すること。
3. 犬の所有者等は、適当な時期に、飼養目的等に応じ、人の生命、身体及び財産に危害を加え、並びに人に迷惑を及ぼすことのないよう、適正な方法でしつけを行うとともに、特に所有者等の制止に従うよう訓練に努めること。
4. 犬の所有者等は、犬を道路等屋外で運動させる場合には、次の事項を遵守するよう努めること。
(1)犬を制御できる者が原則として引き運動により行うこと。
(2)犬の突発的な行動に対応できるように引綱の点検及び調節等に配慮すること。
(3)運動場所、時刻等に十分配慮すること。
5. 犬の所有者は、やむを得ず犬を継続して飼養することができなくなった場合には、適正に飼養することのできる者に当該犬を譲渡するように努め、新たな飼養者を見いだすことができない場合に限って、都道府県等(動物の愛護及び管理に関する法律(昭和48年法律第105号)第18条第1項に規定する都道府県等)をいう。以下同じ。)に引取りを求めるとこと。
6. 犬の所有者は、子犬の譲渡に当たっては、特別の場合を除き、離乳前に譲渡しないように努めるとともに、その社会化が十分に図られた後に譲渡するよう努めること。また、譲渡を受ける者に対し、社会化に関する情報を提供するよう努めること。

第6 この飼養及び保管に関する基準

1. この所有者等は、周辺環境に応じた適切な飼養及び保管を行うことにより人に迷惑を及ぼすことのないよう努めること。
2. この所有者等は、疾病の感染防止、不慮の事故防止等この健康と安全の保持の観点から、屋内飼養に努めるものとし、屋内飼養以外の方法により飼養する場合には、屋外での疾病の感染、不慮の事故防止等この健康と安全の保持に十分な配慮を行うこと。

3. この所有者は、繁殖制限に係る共通基準によるほか、屋内飼養によらない場合にあっては、原則として、去勢手術、不妊手術等繁殖制限の措置を講ずること。
4. この所有者は、やむを得ずこれを継続して飼養することができなくなった場合には、適正に飼養することのできる者に当該犬を譲渡するよう努め、新たな飼養者を見いだすことができない場合に限り、都道府県等に引取りを求めるとこと。
5. この所有者は、子犬の譲渡に当たっては、特別の場合を除き、離乳前に譲渡しないように努めるとともに、その社会化が十分に図られた後に譲渡するよう努めること。また、譲渡を受ける者に対し、社会化に関する情報を提供するよう努めること。

第7 学校、福祉施設等における飼養及び保管

1. 管理者は、動物の飼養及び保管が、獣医師等十分な知識と飼養経験を有する者の指導の下に行われるよう努め、本基準の各項に基づき適切な動物の飼養及び保管並びに動物による事故の防止に努めること。
2. 管理者は、飼養及び保管する動物に対して飼養に当たる者以外の者からみだりに食物等を与えられ、又は動物が傷つけられ、若しくは苦しめられることがないように努めること。

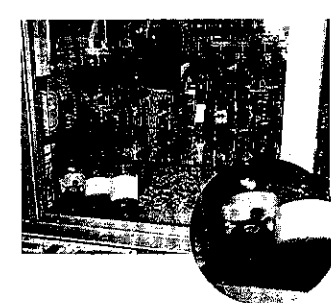
第8 その他

所有者等は、動物の逸走、放し飼いや、野生動物の捕食、在来種の圧迫等の自然環境保全上の問題が生じ、人と動物との共生に支障が生じることがないように十分な配慮を行うこと。

第9 準用

家庭動物等に該当しない犬又はねこについては、当該動物の飼養及び保管の目的に反しない限り、本基準を準用する。

視察 UFO キャッチャー



東 京 大 田 区
内のゲームセンター「G10」の店の外で、びん入りのミドリガメや小型の熱帯魚がUFOキャッチャーの景品として展示されていました。生きた動物を景品とするのは、動物をモノ扱いしている上、衝動買いの結果、劣悪な飼育管理や動物を捨ててしまふという問題になりやすいため、当協会では反対しています。捨てられた動物たちは、その環境に適応できなければまもなく死んでしまいます。逆に適応できる動物たちは、繁殖を繰り返して日本の生態系を乱す場合もあります。このゲームセンターは、店の外に展示していたため、夏場の気温の上昇や心無い通行人による虐待行為も懸念されます。当協会からゲームセンターに対し、生きた動物を景品にしないよう要請しました。後日、このびん入りミドリガメや熱帯魚の「製造元」である会社から当協会本部へ、「ミドリガメについては早速取りやめるが、熱帯魚については飼いや飼い主責任をゲーム機に表示し、店員にも口頭で説明させるようにするので続けさせてほしい」という話がありました。当協会としては熱帯魚の景品も容認できないことを伝えました。他にも同区内で小鳥や金魚をUFOキャッチャーの景品にしている店もありましたが、東京都動物愛護相談センターの職員の説得により撤去されました。(白井百合)

動物たちは、繁殖を繰り返して日本の生態系を乱す場合もあります。このゲームセンターは、店の外に展示していたため、夏場の気温の上昇や心無い通行人による虐待行為も懸念されます。当協会からゲームセンターに対し、生きた動物を景品にしないよう要請しました。後日、このびん入りミドリガメや熱帯魚の「製造元」である会社から当協会本部へ、「ミドリガメについては早速取りやめるが、熱帯魚については飼いや飼い主責任をゲーム機に表示し、店員にも口頭で説明させるようにするので続けさせてほしい」という話がありました。当協会としては熱帯魚の景品も容認できないことを伝えました。他にも同区内で小鳥や金魚をUFOキャッチャーの景品にしている店もありましたが、東京都動物愛護相談センターの職員の説得により撤去されました。(白井百合)

シンポジウム Information 野生動物飼育の問題を考える

日時：9月21日(土) 午後1時～午後4時30分(予定)
会場：東京都美術館講堂
会費：無 料
テーマ：野生動物の飼育のあり方を考える
～生物多様性保全と動物福祉の観点から～
主催：環境庁 ●千石 正一【財自然環境研究センター研究主幹】
■パネルディスカッション
司会 ●中川 志郎【財日本動物愛護協会理事長】
パネリスト/ ●千石 正一/ ●山崎恵子【ペット研究会「互」主宰】/ ●小宮輝之【上野動物園飼育課長】/ 他1名



山形県・鳥取県の方へご応募下さい。
「捨て猫防止キャンペーン」は、皆様のご支援により、今年度で9年目を迎えることができました。今回は、山形・鳥取の両県で実施します。
内容 抽選で各県雌(犬・猫)200頭、雄(犬・猫)100頭に限り雌10,000円、雄5,000円を不妊・去勢手術料の助成金として支給
応募資格 山形県または鳥取県在住者
応募方法 依頼者の氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号、犬・猫の性別、犬・猫の品種(雑種の場合は日本犬系雑種など、何系かを記入)、現在の年・月齢(生後の年数・推定可)、入手先、健康状態、呼び名を明記して〒106-8663(株)日本動物福祉協会「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン係」まで片道葉書で応募。葉書1枚につき1頭分の応募とします。鳥取県の犬の場合は、あらかじめ畜犬登録と狂犬病予防接種を済ませてください。
応募期限 平成14年9月20日(土) 消印有効
当選者の発表 平成14年10月中旬に当選者へ郵送で通知
手術期限 当選通知受領時より平成15年1月29日(水)まで
助成金お支払い 手術済葉書を返送した当選者へ平成15年2月中旬に郵送。
*詳細は当協会本部事務局 ☎03-3405-5681
担当(山口・白井)へお問い合わせください。